

レスポンシブル・ケア活動 ～化学製品のサプライチェーン支える基盤～

一般社団法人日本化学工業協会 レスポンシブル・ケア委員会

生活必需品から先端材料まで、社会のあらゆる場面で活用されている化学製品。その安定供給を支えるサプライチェーンの基礎となっているのがレスポンシブル・ケア活動だ。1985年にカナダで誕生、95年からは我が国でも活動が開始された。それから30年余、化学企業を中心として定着し、裾野も着実に拡大している。開発から製造、廃棄、リサイクルに及ぶ化学製品のライフサイクル全体を管理するこの仕組みは、持続可能な社会の実現の一環としても重要な役割を果たすとともに、化学製品のサプライチェーン強化にも貢献している。

企業の自主的取り組みが基本

日本化学工業協会（日化協、JCIA）が中心となって推進しているレスポンシブル・ケア（RC）活動は、化学製品の開発から製造、物流、使用、最終消費、廃棄・リサイクル、いわゆる化学製品のライフサイクルにわたる管理を目的とする。日本では1995年に日本レスポンシブル・ケア協議会が設立され、RC活動の実践が本格的に開始された。その後、RC活動のさらなる普及・強化を図るため2012年に日化協と統合されてレスポンシブル・ケア委員会が発足。これに伴い、すべての日化協会員企業は原則としてレスポンシブル・ケア委員会（126社、2026年3月末現在）に参加するとともに、化学製品のライフサイクル全般について、会員企業が自主的に「環境・健康・安全」を確保する取り組みに賛同している。

地域・消費者との交流深める

日化協のRC活動は、化学製品のライフサイクルに関わる各段階において、自主的に情報の公開を行い、対話を行うことにより社内外との相互理解を深めている。製造部門が集積している地域住民、消費者団体との対話・集会などはその一例だ。中でも、化学工場が多く集積しているコンビナートを含む全国14地域では、隔年で近隣住民との対話集会を開催。その時々テーマや問題などを話し

合うことで、生産活動に対する理解の促進を図るとともに、健全な生産活動の維持に努めている。昨年度は、大分、山口西、岩国・大竹、岡山、堺・泉北、川崎の6地域で地域対話集会が開催された。そこで取り上げられた話題・テーマで最も関心を集めたのは、地震や津波など自然災害への対応をめぐるものだった。開催されたすべての地域対話集会で、対策や情報提供について報告および意見交換が行われた。そのほかにも、漏洩や火災など保安防災・事故災害対応への対応、環境保全・環境汚染への対応が話題にのぼった。一方、企業側からは、カーボンニュートラル・地球温暖化対策への取り



大分地区で開催された地域対話

組み、設備管理のDX化の推進、生物多様性の保全活動や緑化、事故事例およびその再発防止の報告、地域への広報・情報公開・対話への取り組みが報告された。このうち4地域では、対話集会とともに、工場見学も実施された。これら地域対話集会に加え、個別事業所による住民対話集会も5事業所で2008年からスタート、現在では23の事業所と4地域で開催されるなど、RC活動は着実に拡大している。

次世代へのアピール強化

RC活動は化学製品の安全・安定供給といったサプライチェーンの根幹を支え



レスポンシブル・ケア
安全とサステナビリティの推進
今年度に制定された新 RC ロゴ

る活動であり、製品のある限りそれを持続していかなければならない。時代の変化に即した対応や革新的な発想・技術が求められるのは必須であり、現役世代に続く人材の確保も企業の重要な課題となっている。バイオマスを出発原料とする化学製品、先進的な複合材料など従来製品にない特徴を持つ多岐な革新素材の登場、情報処理のデジタル化、研究開発対応におけるAIの導入などが急速に進む現状で、こういった変化に対応する新たなRC活動を支える若い世代が必要とされている。これらを念頭に、日化協では、高校生や大学生、新社会人ら若い世代へのRC活動の認知度向上を目的に、5月に高校生向けに新聞の広告記事¹⁾を掲載。今後、これらの活動へのフィードバックを得つつ、化学産業の未来を意識した広報活動を強化していく計画である。

世界的な連携も着実に拡大

RC活動は、化学業界のデファクトスタンダードとして定着、世界70カ国で実践されており、世界の化学メーカー上位100社を含む3000社以上がRC憲章にサインして、憲章の原則²⁾に沿った改善に取り組んでいる。これら化学企業が加盟する各国化学工業協会で構成される国

賞区分	表彰対象会社	表彰テーマ
大賞	花王ロジスティクス株式会社	ドライバーが安心安全に働ける持続可能な物流をめざして
審査員特別賞	住友共同電力株式会社	工事安全パトロールにおける笑顔のコミュニケーション活動 (協力会社とともに築く安全文化)
優秀賞	旭化成アドバンス株式会社 樹脂化学品本部 化学品事業部 九州営業部 宮崎ケミカルセンター	顧客カード作成

際化学工業協会協議会 (ICCA) では、RC リーダーシップ・グループ (RC-LG) を設け、RC 活動を世界レベルで推進するため、毎年春秋の2回対面会議を開催し、RC 活動のグローバルな課題や方針を協議している。今年春は独フランクフルトで開催され、今後の RC 活動の方針や欧州で試行が予定されているデジタル製品パスポートの現状などが報告され



独フランクフルトで開かれた対面会議参加者ら

た。ちなみに、ICCA が昨年、RC ロゴを更新したこと、日化協でもこれに合わせて今年度から新しい RC ロゴの商標登録を申請し、4 月から RC 会員企業への周知・切り替えを求めている。

東南アジアで RC 活動支援

一方、日化協は 2017 年度から、海外支援ワーキンググループを設置し、東南アジアに進出している日化協会員現地企業の RC 活動を支援している。その中でもタイ、インドネシア、マレーシア、ベトナムでは、例年の商工会議所との共催や会員現地企業の支援を受けて、経営層向けの RC 講演会と現地スタッフ向けのワークショップ (WS) を開催している。昨年度の講演会では、化学産業の動向や化学品管理・規制についての講話が行わ

れた。WS では、我が国における優秀な安全活動の紹介や作業のリスクアセスメントに関する講義・グループ討議が行われた。また、保安防災や労働安全に関する e-ラーニング教材 (18 教材、英語・タイ語・インドネシア語・ベトナム語) をオンデマンド配信し、各国での講演会や WS に参加した企業の従業員に利用されている。

労働安全衛生への取り組み推進

RC 活動は企業が自主的に「環境・安全・健康」を確保することを目的としている。中でも生産現場などでの労働安全の確保は重要な課題である。日化協の 2025 年版労働安全衛生実態調査では、協力会社の度数率が若干上昇するなど、やや憂慮すべき結果が示されている。社会全体での高齢化が進むことも踏まえ、日化協では厚生労働省の第 14 次労働災害防止計画などの行政施策への協力、会員企業間での情報共有を柱として、人的リスク、生産リスクの低減に取り組んでいる。労働安全衛生部会において、関連法規の改正動向を調査、それに基づく情報を会員企業と共有し、併せて会員の意見を行政に伝えるなどの活動を行っている。一方で、日化協は化学業界における自主的な保安・安全衛生の推進を目指し、安全の模範となる事業所を表彰する制度として「日化協安全表彰」を設けている。第 50 回目となる 2026 年は、安全最優秀賞に荒川化学工業株式会社小名浜工場が選ばれたほか、安全優秀賞にはサンレックス工業株式会社、三井化学株式会社徳山分工場、株式会社レゾナック五井事業所 (野田)、安全優秀特別賞には旭化成ファインケム株式会社大阪開発センターがそれぞれ選定された。

RC 大賞に花王ロジスティクス

日化協ではこれまで、RC 活動の意識



子どもの未来を守る活動「子ども安全教室」風景

RC 大賞を受賞して

花王ロジスティクス株式会社

RC 推進部部長

花岡 真樹

このたびは RC 大賞を賜り、誠にありがとうございます。日化協ならびに RC 賞審査委員の皆様、当社の物流安全を核とした RC 活動を高くご評価いただき、大きな励みとなりました。今後も、『安全の日』を原点に、ドライブレコーダー等の基礎活動や、認知力トレーニング等、協力会社様と一緒に、環境への配慮と地域との対話を深め、事故ゼロを目標に、安心安全にやりがいをもって働ける持続可能な物流を推進してまいります。

向上や活性化を目指し、その活動や普及に個人やグループを対象に毎年、「日化協レスポンシブル・ケア賞」を選定し、表彰している。第 20 回目となる今年度は、大賞に花王ロジスティクス株式会社が、審査員特別賞には住友共同電力株式会社、優秀賞には旭化成アドバンス株式会社樹脂化学品本部化学品事業部九州営業部宮崎ケミカルセンターがそれぞれ選ばれた (表参照)。表彰式は 5 月 26 日、東京・千代田区のパレスホテル東京で行われた。

- 1) 日本経済新聞 2026 年 5 月 27 日 第二部 高校生向け特別版「化学のおかげで便利な毎日」第 5 面
- 2) レスポンシブル・ケア (RC) 世界憲章の改訂について | JCIA 一般社団法人 日本化学工業協会, <https://www.nikkakyo.org/news/page/6224>

© 2026 The Chemical Society of Japan



一般社団法人
日本化学工業協会